

[論文]

## 私訳と訳注 エゼキエル書 (1) 1-11 章

北 博

凡 例

( ) 訳者による補足。

[ ] 代名詞の指示語。

使用文献とその略語については、末尾に記載。

### [1 章]

(1 節) 30 年、第 4 (の月)、その月の 5 (日) のこと、わたしはケバル川沿いの捕囚民の中にいた。天が開かれ、わたしは神の顕現を見た。

(2 節) その月の 5 (日)。それはまさにヨヤキン王の捕囚の第 5 年だった。

(3 節) ヤハウエの言葉が、カルデア人の地、ケバル川沿いにいる祭司ブジの子エゼキエルに対してあった。そして彼の上に<sup>1</sup>、そこにヤハウエの手があった。

(4 節) そしてわたしは見た。すると見よ、激しい<sup>2</sup> 風が北からやって来た。<sup>3</sup> 巨大な黒雲<sup>4</sup>、そして煌めく<sup>5</sup> 火、そしてその周りの輝き。そしてその火の只中には白金の輝き<sup>6</sup> のようなものが、(まさに) その火の只中にあった<sup>7</sup>。

(5 節) その〔火あるいは輝きの〕只中から、四つの生き物の姿があった。その有様は、次のようであった。それらは人の姿をしていた<sup>8</sup>。

<sup>1</sup> いくつかのマソラ写本、70 人訳、ベシッタは、「わたしの上に」。3 章 22 節を参照。

<sup>2</sup> シロ・ヘキサプラはここに「主の」が加わる。

<sup>3</sup> 70 人訳、ウルガタは「そして～」

<sup>4</sup> 70 人訳「(が) その〔彼の〕中に」但しヘブライ語本文中にはこの男性形代名詞に相当する語はない。

<sup>5</sup> 別訳「絶え間のない」

<sup>6</sup> 直訳「ハシュマルの目」。「白金」と訳したハシュマルは意味不詳。

<sup>7</sup> 70 人訳はこの後に「そしてその〔彼の〕中に輝き」が続く。

<sup>8</sup> 「人」を「一つ」と読み替える修正案がある。その場合は「一つの姿をしていた」となる。16 節、

(6 節) そして一つ (一つ) に四つの顔があり、それらの一つ (一つ) に四つの翼があった。

(7 節) そしてそれらの脚は真っ直ぐな脚<sup>9</sup>であり、それらの脚の裏は牛の脚の裏のようであり、磨かれた青銅の輝き<sup>10</sup>のように輝いていた。

(8 節) そして人の手が<sup>11</sup>それらの翼の下から、それらの四つの側面の四つの上に出ていた。そしてそれらの四つに対して、それらの顔とそれらの翼があった<sup>12</sup>。

(9 節) それらの翼は互いに連なっていた<sup>13</sup>。そしてそれらが進む際には向きを変えず、それぞれ真っ直ぐに顔が進んだ。

(10 節) それらの顔の形は人の顔で、四つとも右には獅子の顔、四つとも左には牛の顔、そして四つとも鷲の顔があった。

(11 節) そしてそれらの顔<sup>14</sup>、そしてそれらの翼は上に向かって広げられており、それぞれ二つずつ互いに連なっており、二つはその体を覆っていた。

(12 節) そしてそれぞれ真っ直ぐに顔が進み、霊が進む方向に向かって進んだ。それらが進む際には向きを変えなかった。

(13 節) そして生き物達の姿、それらの有様は、燃える炭火のよう、松明の有様のようであり<sup>15</sup>、それ〔炭火〕は生き物達の間を行き来していた。そして火の輝きがあり、火からは稲妻が発していた。

(14 節) そして生き物達は、まるで稲妻の有様のように行き来 (していた)<sup>16</sup>。

(15 節) そしてわたしは生き物達を見た。すると見よ、四つの顔のある生き物達の傍らで、一つ (ずつ) の車輪が地の上に (あった)。

(16 節) 車輪達の有様とそれらの仕様は、貴橄欖石の輝き<sup>17</sup>のようであり、一つの姿は四つとも同じだった。そしてそれらの有様とそれらの仕様は、車輪が車輪の中にあるかの

10 章 10 節を参照。

<sup>9</sup> BHS による読み替えの提案は「牛の脚」。

<sup>10</sup> 直訳「目」。

<sup>11</sup> ケレーによる。

<sup>12</sup> 「翼」という語は 70 人訳にはない。BHS は、ここから「とそれらの翼」を削除した上でこの一文を 9 節 a と結合する修正提案をする。確かにこの方がイメージし易くはなる。

<sup>13</sup> この部分は 70 人訳に欠けている。ツインマーリによれば、8 節と 9 節が切り離されたことによる MT への二次的侵入。

<sup>14</sup> この部分は 70 人訳に欠けている、BHS は削除を提案。

<sup>15</sup> この部分の MT は意味が不可解。70 人訳に基づいた BHS の修正案に従えば、この部分は「そして生き物達の間には、燃える炭火のような有様、松明の有様のような…」となる。

<sup>16</sup> 70 人訳にはこの節は存在しない。ツインマーリによれば、14 節は 70 人訳以後に行なわれた付加。

<sup>17</sup> 直訳「目」

ようだった。

(17 節) それらが進む際には四つの方向の四つに対して進み、進む際には向きを変えなかった。

(18 節) そしてそれらの外枠とそれらの高さ、そしてそれらの恐ろしさ (であるが)<sup>18</sup>、それらの外枠はそれら四つとも周囲には目が満ち溢れていた。

(19 節) そして生き物達が進む際には、その傍らで車輪達も進み、生き物達が地上から上昇する際には車輪達も上昇した。

(20 節) 霊が進む所に対してそれらは進んだ、霊が進む方に<sup>19</sup>。そして車輪達がそれらと一緒に上昇した。なぜなら生き物の霊が車輪達の中にあつたからである。

(21 節) それら〔生き物達〕が進む際にそれら〔車輪達〕は進み、それらが止まる<sup>20</sup>際にそれらは止まり<sup>21</sup>、それらが地上から上昇する際に車輪達はそれらと一緒に上昇した。なぜなら生き物の霊が車輪達の中にあつたからである。

(22 節) そして生き物の頭上の形は天蓋であり、恐ろしい水晶の輝き<sup>22</sup>のようであつた。(それは)それら〔生き物達〕の頭上に、上に向かって広がっていた。

(23 節) そして天蓋の下、真直ぐな翼達が互いに<sup>23</sup>。それぞれ二つがそれら〔生き物達〕に対して覆い、それぞれ二つがそれらに対してそれらの体を覆っていた<sup>24</sup>。

(24 節) そしてわたしは、それら〔生き物達〕が進む際に、大水の音のような、全能者の声<sup>25</sup>のような、翼達の音を聞いた。それは陣営の音のような、どよめきの音だった。それらが止まる<sup>26</sup>時、それらの翼は (垂れ) 下がった。

(25 節) そしてそれらの頭上にある天蓋の上から音<sup>27</sup>がした。それらが立ち止まる<sup>28</sup>時、それらの翼は (垂れ) 下がった。

<sup>18</sup> BHS はテキストがこわれているとして、70 人訳に沿って「そしてわたしは見た。すると見よ、それらの外枠」となるように読み替える。

<sup>19</sup> 70 人訳はこの部分を「その生き物達」と訳す。シリア語ペシッタにはこの部分が存在しない。BHS はこの部分を二重書写として削除を提案する。

<sup>20</sup> 直訳「立つ」

<sup>21</sup> 直訳「立ち」

<sup>22</sup> 直訳「目」

<sup>23</sup> この部分、文章的にも内容的にも問題があるため、BHS は 70 人訳に従って「真直ぐな」の語を読み替え、「そして天蓋の下、翼達が広げられ、互いに触れ合っていた」と修正する。

<sup>24</sup> BHS はこの節の後半部分に二重書写があるととして、「それぞれ二つがそれらに対して覆い」の部分削除する。

<sup>25</sup> あるいは「音」

<sup>26</sup> 直訳「立つ」

<sup>27</sup> あるいは「声」

<sup>28</sup> 直訳「立つ」

(26 節) そしてそれらの頭上にある天蓋の上に、サファイア石<sup>29</sup>の有様のような、王座の形があった。そしてその王座の形の上には、その上に、上に向かって人の有様のような形があった。

(27 節) そしてわたしは、その腰に見えるものから<sup>30</sup>上に向かって、白金の輝き<sup>31</sup>のようなもの、周囲が囲まれた<sup>32</sup>火の有様のようなものを見た。そしてその腰に見えるものから<sup>33</sup>下に向かって、わたしは火の有様のようなものと、その周囲の輝きを見た。

(28 節) 雨の日の雲の間にある虹の有様のようなもの、それが周囲の輝きの有様だった。その有様は、ヤハウエの栄光の姿<sup>34</sup>であった。そしてわたしは見て倒れ伏し、語る声<sup>35</sup>を聞いた。

## [2 章]

(1 節) そして彼はわたしに言った。人の子よ、あなたの脚で立ちなさい。そうすればわたしは、あなたに語ろう。

(2 節) そして彼がわたしに語りかけている時、霊がわたしの中に入り、わたしを自分の脚で立たせた。そしてわたしは、わたしに語りかける者（の声）を聞いた。

(3 節) そして彼はわたしに言った。人の子よ、わたしはあなたをわたしに反逆した反逆者達、イスラエルの子らの許へ、諸国民の許へ<sup>36</sup>遣わそうとしている。彼らも彼らの父祖達も私に背いて、まさに今日に至っている。

(4 節) そして顔が厚く、心の硬い子ら、わたしは彼らの許にあなたを遣わそうとしている。そしてあなたは彼らに言え。主なるヤハウエはこう言う。

(5 節) そして彼らが聞こうが拒もうが、なぜなら彼らは反逆の家なのだから、彼らは預言者があなた達の中にいることを知るのだ。

(6 節) そして汝、人の子よ、彼らに怯えてはならない。また、彼らの言葉に怯えてはならない。まことに頑なな者達と茨があなたと共にあり<sup>37</sup>、あなたはサソリの上に座って

<sup>29</sup> 別訳「ラピス・ラズーリ」。ブロックによれば、古代にはサファイア石は殆ど知られていなかった。

<sup>30</sup> 直訳「その腰の有様から」

<sup>31</sup> 注 6 を参照。

<sup>32</sup> 直訳「周囲が家に属する」

<sup>33</sup> 直訳「その腰の有様から」

<sup>34</sup> 別訳「形」

<sup>35</sup> 「声」と訳した語は、ここまで「音」と訳してきた語と同じ。

<sup>36</sup> この部分、70 人訳に欠けており、ベシッタは単数扱い（「国民の許へ」）になっている。

<sup>37</sup> この部分、BHS の修正提案に即して訳せば「まことに茨があなたを凝り囲んでいる」となる。

いる。彼らの言葉に怯えてはならない。また、彼らの顔にうろたえてはならない。なぜなら彼らは反逆の家なのだから。

(7 節) そして彼らが聞こうが拒もうが、あなたはわが言葉を彼らに語れ。なぜなら彼らは反逆者達なのだから。

(8 節) そして汝、人の子よ、わたしがあなたに語ることを聞け。あなたは反逆の家のように反逆者とはなるな。あなたの口を開け、わたしがあなたに与えようとする物を食らえ。

(9 節) そしてわたしが見ると、見よ、(一つの)手がわたしの許に差し向けられた。そして見よ、その中には巻き物の書<sup>38</sup>があった。

(10 節) そして彼は、それ〔巻き物〕をわたしの前で広げた。そしてそれには、表も裏も、(文字が)書かれてあった。そしてそれには、哀歌と呻きと歎きが書かれていた。

### [3 章]

(1 節) そして彼はわたしに言った。人の子よ、あなたが目にする物を食らえ。この巻き物を食らい、行ってイスラエルの家に向かって語れ。

(2 節) そしてわたしはわたしの口を開けた。そして彼はこの巻き物をわたしに食べさせた。

(3 節) そして彼はわたしに言った。人の子よ、わたしがあなたに与えようとしているこの巻き物をあなたの腹に食らわせ、あなたの臓腑を(それで)満たせ。そしてわたしは(それを)食らい、それはわたしの口の中で蜂蜜のように甘くなった。

(4 節) そして彼はわたしに言った。人の子よ、行ってイスラエルの家へ赴き、わが言葉によって彼らに語れ。

(5 節) なぜならあなたは、唇が深く舌の重い<sup>39</sup>民に遣わされるのではない。イスラエルの人に(遣わされるの)である。

(6 節) あなたがその言葉を聞き取ることのできない、唇が深く舌の重い<sup>40</sup>多くの民族に(遣わされるの)ではない。わたしがあなたを彼らの許に遣わすならば、彼らはあなたに聞かないであろうか(いや、必ず聞くであろう)。

(7 節) しかしイスラエルの家は、あなたに聞こうとはしないであろう。なぜなら彼ら

<sup>38</sup> 直訳「書の巻き物」。

<sup>39</sup> 意識すれば「難解な言語、不明瞭な発音の」。

<sup>40</sup> 前注と同じ。

は誰もわたしに聞こうとはしないからだ。まことにイスラエルの全家は、額が硬く心が頑なだ。

(8節) 見よ、わたしはあなたの顔を彼らの顔と同じように硬くし、あなたの額を彼らの額と同じように硬くする。

(9節) わたしはあなたの額を、火打石より硬い金剛石のようにする。彼らを恐れてはならない。また、彼らの顔にうろたえてはならない。なぜなら彼らは、反逆の家なのだから。

(10節) そして彼はわたしに言った。人の子よ、わたしがあなたに語るすべてのわが言葉をあなたの心に取り入れ、あなたの耳に聞き入れよ。

(11節) そして行って、捕囚民の許へ、あなたの民の子らの許へ赴き、彼らに語りかけ、彼らに、主なるヤハウェはこう言われる、と言え。彼らが聞こうと拒もうと(そうせよ)。

(12節) そして霊がわたしを引き上げ、わたしはわたしの背後に大きな震動音を聞いた。祝福されよ、その場所からヤハウェの栄光<sup>41</sup>。

(13節) そして生き物達の翼が互いに触れ合う音、そしてそれらと一緒に車輪の音。更に大きな震動音。

(14節) そして霊がわたしを引き上げ、わたしを連れ去った。そしてわたしは自分の霊の激しさ<sup>42</sup>に苦々しく出て行った。そしてヤハウェの手がわたしの上に強くあった。

(15節) そしてわたしは、ケバル川沿いに住んでいるテル・アビブの捕囚民の許に行き、坐った<sup>43</sup>。彼らがそこに住んでいた<sup>44</sup>。そしてわたしはそこに七日間、呆然として彼らの間に坐っていた。

(16節) そして7日後のことだった。<sup>45</sup> ヤハウェの言葉がわたしにあり、こう言われた。

(17節) 人の子よ、わたしはあなたをイスラエルの家に対する見張りとした。あなたはわたしの口から(出る)言葉を聞き、彼らにわたしから<sup>46</sup>(の言葉を)警告するのだ。

(18節) わたしが悪人に、あなたはきっと死ぬであろうと言う時、あなたが彼に警告せず、悪人にその悪い道から(立ち帰って)命を永らえるように警告して語らないならば、

<sup>41</sup> BHSは「祝福されよ」を読み替えて「その場所からヤハウェの栄光が昇る時」と修正。

<sup>42</sup> あるいは「昂揚」。

<sup>43</sup> 「坐った」はケレーによる。

<sup>44</sup> この節の前半をBHSの修正案に従って訳せば、「そしてわたしは、彼らがそこに住んでいるテル・アビブの捕囚民の許に赴いた」となる。

<sup>45</sup> レニングラード写本はこの次にペーの文字。訳文では、一文字分空欄にした。

<sup>46</sup> ツィンマーリはこの語を「わたしの前で」、グリーンバーグは「わたしに対して」と訳す。

悪人である彼はその咎によって死に、わたしは彼の血（の責任）をあなたの手から求めるであろう。

（19 節） そして汝よ、あなたが悪人に警告したのに、彼がその悪とその悪い道から立ち帰らなければ、彼はその咎によって死ぬであろうが、あなたはあなたの命を救う。

（20 節） そして義人が彼の義から転向し、不義を行なう時、わたしは彼の前に躓きを与え、彼は死ぬであろう。まことにあなたが彼に警告しなかったので、彼はその罪によって死に、彼が行なった彼の義<sup>47</sup>は覚えられず、わたしは彼の血（の責任）をあなたの手から求めるであろう。

（21 節） そして汝よ、義人が罪を犯さないようにと、義人である彼にあなたが警告し、彼が罪を犯さなかったならば、彼はきっと生きる。警告を受けたからである。そしてあなたは、あなたの命を救う。

（22 節） ヤハウェの手がそこに、わたしの上にあった。彼はわたしに、立って谷間に出て行け、そこでわたしはあなたに語ろう、と言った。

（23 節） そしてわたしは立ち、谷間に出て行った。そしてそこに見よ、わたしがケバル川沿いで見た栄光のようなヤハウェの栄光が立っていた。そしてわたしは、倒れ伏した。

（24 節） そして霊がわたしの中に入り、わたしを自分の脚で立たせた。そして彼はわたしに語りかけ、わたしに言った。あなたの家の只中に入り、引きこもれ。

（25 節） そして汝、人の子よ、見よ、彼らはあなたの上に縄を置き、彼らの中であなたを縛り上げる<sup>48</sup>。そしてあなたは、彼らの間に出て行くことはないであろう。

（26 節） そしてわたしはあなたの舌をあなたの上顎に付かせよう。あなたは口がきけなくなり、彼らに対して弁論<sup>49</sup>する者ではなくなるであろう。なぜなら彼らは反逆の家なのだから。

（27 節） そしてわたしがあなたに語りかける時、わたしはあなたの口を開くであろう。そしてあなたは彼らに言うのだ。主なるヤハウェはこう言われる。聞く者は聞き、拒む者は拒むであろう。なぜなら彼らは反逆の家なのだから。

#### [4 章]

（1 節） そして汝、人の子よ、あなたは煉瓦を取り、それを自分の前に置き、その上に都、

<sup>47</sup> ケレーは複数形。

<sup>48</sup> BHS は、この二つの動詞の人称を 1 人称として主語を「彼ら」ではなく「わたし」つまり神とする修正提案をする。

<sup>49</sup> 別訳「叱責」。

エルサレムを刻み付けなさい。

(2節) そしてあなたはそれに向かって包囲網を敷き、それに向かって包囲壁を築き、それに向かって土塁を積み上げるのだ。そしてあなたはそれに向かって陣営を敷き、それに向かって周囲に破城機を配備せよ。

(3節) そして汝よ、あなたは鉄板を取り、それをあなたと都の間の鉄の壁とせよ。そしてあなたが自分の顔を彼女〔都〕に向けると、彼女は包囲網の中にあり、あなたは彼女に向かって包囲するのだ。彼女はイスラエルの家に対するしるしである。

(4節) そして汝よ、あなたは自分の左側を下にして横たわり、イスラエルの家の咎をその上に置くのだ。あなたがそのように横たわる<sup>50</sup>日数だけ、あなたは彼らの咎を負うことになる。

(5節) そしてわたしはあなたのために、彼らの咎の年(数)を、390日<sup>51</sup>の日数に応じて与える。そしてあなたは、イスラエルの家の咎を負うのだ。

(6節) そしてあなたは、これら(の日々)を全うしたなら、次に自分の右側<sup>52</sup>を下にして横たわり、ユダの家の咎を40日間負うのだ。1年につき1日、わたしはあなたのために1年につき1日、それを与える。

(7節) そしてあなたは、あなたの顔と裸の腕とをエルサレムの包囲網に向け、彼女〔エルサレム〕に対して預言するのだ。

(8節) そして見よ、わたしはあなたの上に縄を置く。そしてあなたは、あなたの包囲の日々を全うするまで、一方の側からもう一方の側へと寝返りを打つことはないであろう。

(9節) そして汝よ、あなたは小麦、大麦、豆、レンズ豆、雑穀<sup>53</sup>、飼料用小麦を取り、それらを一つの容器に収め、それらを自分のためにパンにしなさい。あなたが横ざまに寝る390日<sup>54</sup>の日数、あなたはそれを食らうのだ。

(10節) あなたが食らうあなたの食物は、1日に20シェケルの重さであり、あなたはそれを規則正しく<sup>55</sup>食らうのだ。

(11節) そしてあなたは水を、容積にして6分の1ヒン飲むのだ。あなたは規則正しく<sup>56</sup>飲むのだ。

<sup>50</sup> 70人訳はここに「150の」が入る。

<sup>51</sup> 70人訳は「190日」。

<sup>52</sup> ケレーによる訳。

<sup>53</sup> 別訳「黍」ないし「粟」。

<sup>54</sup> 70人訳は「190日」。

<sup>55</sup> 直訳「時から時まで」=等間隔で。

<sup>56</sup> 前注を見よ。



(12 節) あなたは大麦の焼き菓子 (にして) それ<sup>57</sup> を食らえ。そしてあなたは、それを人糞のかたまりで、彼らの目の前で焼き上げるのだ。

(13 節) ヤハウエは言われる。イスラエルの子らは、このようにわたしが彼らを追い散らす国々で、汚れた彼らのパンを食らうのだ。

(14 節) そしてわたしは言った。ああ、主なるヤハウエよ、ご覧ください。わたしの命は汚されていません<sup>58</sup>。わたしは死骸も、噛み裂かれた動物も、若い頃から今日に至るまで、食べていません。また、汚れた肉がわたしの口に入ったこともありません。

(15 節) そして彼はわたしに言われた。見よ、わたしはあなたのために、人糞の代わりに牛の糞<sup>59</sup> を与える。そしてあなたは、それ〔牛糞〕であなたのパンを調理するのだ。

(16 節) そして彼はわたしに言われた。人の子よ、見よ、(わたしは) エルサレムでパン棒を折る。そして彼らはパンを重さで (計って) 不安のうちに食らい、水を容積で (量って) 恐怖のうちに飲むことになる。

(17 節) 彼らはパンと水が欠乏するので、互いに恐れ合い、また自分達の咎によって衰え果てる。

## [5 章]

(1 節) そして汝、人の子よ、あなたは鋭い剣を取れ。あなたはそれを床屋の剃刀 (として) 取り、あなたの頭と髭の上を走らせよ。そしてあなたは重さ (を計る) 天秤を取り、それらを分けるのだ。

(2 節) 包囲の日々の満ちる時、あなたは 3 分の 1 を都の只中で炎に燃やすのだ。また、あなたは 3 分の 1 を取り、彼女〔都〕の周囲を剣で打ち、3 分の 1 を風に向かってまき散らすのだ<sup>60</sup>。わたしは彼らの後ろで剣を抜こう。

(3 節) そしてあなたはそこから少しの数を取り、それらをあなたの衣の裾で包み込むのだ。

(4 節) そしてあなたは更にそれらの中から取り、それらを火の中に投げ入れ、それらを火で焼くのだ。そこから火が出て、イスラエルの全家に (及ぶ)。

<sup>57</sup> 「焼き菓子」に引きずられて女性形の接尾辞が使われているが、文脈上は 10 節の「それ」と同様「食物」を指すと解す他ない。

<sup>58</sup> 訳文は直訳。「わたしは自分自身を汚したことがない」の意。

<sup>59</sup> 訳語はケレーによる。

<sup>60</sup> この節のここまでの 70 人訳は、次の通り。「包囲の日々の満了後、あなたは 4 分の 1 を都の中で炎で燃やし、4 分の 1 を取り、それを彼女の中で燃やすであろう。そして 4 分の 1 を彼女の周囲で剣で切り刻み、4 分の 1 を風にまき散らすであろう」。12 節の注を参照。

(5節) 主なるヤハウエはこう言われる。これぞエルサレム、わたしは彼女〔エルサレム〕を諸国民の只中に、そして彼女の周囲に国々を置いた。

(6節) そして彼女〔エルサレム〕は、わが戒律に対して諸国民にまさって邪悪に（反逆し）、またわが掟に対して彼女の周囲の国々にまさって反逆した<sup>61</sup>。まことに彼らはわが戒律を拒み、わが掟（について）も彼らはそれら〔わが掟〕によって歩まなかった。

(7節) それゆえ主なるヤハウエは言われる。あなた達の騒がしさ<sup>62</sup>があなた達の周囲の諸国民にまさり、あなた達がわが掟に歩まずわが戒律を行わず、あなた達の周囲の諸国民の戒律のように（も）行なわなかったがゆえに、

(8節) それえ主なるヤハウエはこう言われる。見よ、あなたに対してわたしも同様にする。そしてわたしは諸国民の眼前で、あなたの只中で裁き<sup>63</sup>を行なう。

(9節) そしてわたしは、わたしが行なわなかったことを、そして再び行なわないであろうようなことを、あなたに対して行なう。それはあなたのすべての忌み嫌うべきことのゆえである。

(10節) それゆえ、あなたの只中で父親は息子達を食らい、息子達は彼らの父親達を食らうであろう。そしてわたしはあなたに対して裁きを行ない、あなたのすべての残りの者達を四方に<sup>64</sup>まき散らす。

(11節) それゆえ、わたしは生きている、主なるヤハウエの御告げ。あなたがわが聖所を、あなたのすべての憎むべきことと、あなたのすべての忌み嫌うべきことによって汚したがゆえに。わたしもまた剃り落とし<sup>65</sup>、わが目は憐れまず、わたしもまた容赦しないであろう。

(12節) あなたのうちの3分の1は疫病で死に、彼らはあなたの只中で飢えによって亡び<sup>66</sup>、3分の1はあなたの周りで剣によって倒れるであろう。そして3分の1をわたしは四方に<sup>67</sup>まき散らし、彼らの後ろで剣を抜く。

<sup>61</sup> 70人訳はこの部分を、「そしてあなたはわが義を諸国からの無法者に、またわが律法を彼女の周囲の国々から（の無法者）に語るだろう」と訳す。

<sup>62</sup> BHSの提案に従って、6節で使われた動詞「反逆した」の不定形に読み替えば、ここは「あなた達の反逆」となる。しかし、この語自体に既にそのような暗示がある。

<sup>63</sup> 訳文は読み替えによる。MTを直訳すれば「戒律」。

<sup>64</sup> 直訳「すべての風に向かって」。

<sup>65</sup> テキストが壊れている。動詞本来の意味は「減少する」「退却する」。70人訳は「わたしは退けるであろう」。訳文はK&Bとウルガタを参考にしたものだが、様々な読み替え案がある。

<sup>66</sup> 70人訳は、冒頭のここまでを「あなたの4分の1は死によって亡ぼされ、あなたの4分の1は飢えによってあなたの只中で絶たれ」と訳し、それに続く部分もすべて「4分の1」とする。2節の注を参照。

<sup>67</sup> 直訳「すべての風に向かって」。

(13 節) そしてわが怒りは尽き、彼らに対してわたしはわが憤りを鎮め、和らぐ。そして彼らは、彼らに対してわが憤りをわたしが全うした時、わたしヤハウエが熱情をもって語ったことを知る。

(14 節) そしてわたしはあなたを、あなたの周囲の諸国民の間で、すべての行き交う人の目に廢墟とし、またそしりとする<sup>68</sup>。

(15 節) そしてあなた<sup>69</sup>は、わたしが怒りと憤りと憤りの叱責によってあなたに対して裁きを行なう時、あなたの周囲の諸国民にとって、そしりと嘲り、教訓と恐怖となる。わたしヤハウエが語ったのだ。

(16 節) わたしが悪い飢饉の矢を彼らの中に送る時、それら〔矢〕は滅びとなり、それらをわたしはあなた達を滅ぼすために送る。そしてあなた達の上に飢饉をわたしは増し加えよう。そしてわたしはあなた達に対してパン棒を折る。

(17 節) そしてわたしはあなた達の上に飢饉と悪い獣を送り、それらはあなたを子なしにする。そして疫病と流血があなたの上を通り過ぎ、わたしはあなたの上に剣をもたらすであろう。わたしヤハウエが語ったのだ。

## [6 章]

(1 節) そしてヤハウエの言葉がわたしにあり、こう言われた。

(2 節) 人の子よ、あなたの顔をイスラエルの山々に向け、彼らに対して預言せよ。

(3 節) あなたは言うのだ。イスラエルの山々よ、主なるヤハウエの言葉を聞け。主なるヤハウエは、山々と丘々、涸れ川と谷間<sup>70</sup>に対してこう言われる。見よ、わたしはあなた達の上に剣をもたらそうとしている。そしてわたしはあなた達の高き所を破壊する。

(4 節) そしてあなた達の祭壇は荒らされ、あなた達の香炉壇<sup>71</sup>は折られる。そしてわたしはあなた達の刺し貫かれた者達を、あなた達の偶像の前で倒れ伏させる。

(5 節) そしてわたしはイスラエルの子らの死体を彼らの偶像の前に供え、あなた達の骨をあなた達の祭壇の周囲にまき散らす。

(6 節) あなた達の住む所すべてにおいて、町々は廢墟となり、高き所は荒れ果てるで

<sup>68</sup> 70 人訳「そしてわたしはあなたを廢墟となすであろう。そしてあなたの周囲、すべての行き交う人の前で、あなたの娘達も」。

<sup>69</sup> 訳文は二人称単数形への読み替えによる。多くの古代訳もこのように訳す。マソラ本文は三人称女性形になっており、意味をなさない。

<sup>70</sup> ケレーによる訳。

<sup>71</sup> 別訳「太陽の柱」(BDB)。

あろう。そしてあなた達の祭壇は廢墟となり、罪に定められ、あなた達の偶像は折られ、終息させられ、あなた達の香炉壇<sup>72</sup>は切り倒され、あなた達のなした業は消し去られるであろう。

(7節) そして刺し貫かれた者はあなた達の只中で倒れる。そしてあなた達は、わたしがヤハウエであることを知る。

(8節) しかしわたしが残すので、あなた達は諸国民の間で剣を逃れた者達として永らえ、あなた達は諸国にまき散らされる。

(9節) そしてあなた達の逃れた者達は、捕囚先の諸国民の間でわたしを思い出す。わたしから離れ去る彼らの姦淫する心と、彼らの偶像を求めて姦淫する彼らの目によって、そこでわたしは折られる<sup>73</sup>。そして彼らは、自分達がなした数々の悪のことで、彼らのすべての忌み嫌うべきことのゆえに、自らの顔を嫌悪する。

(10節) そして彼らは、わたしヤハウエが故なく彼らに対してこの災い<sup>74</sup>をなすと語ったのではないことを知る。

(11節) 主なるヤハウエはこう言われる。あなたの掌を打ち、あなたの足を踏み鳴らし、イスラエルの家のすべての悪い忌み嫌うべきことのゆえに、ああ、と言え。彼らは、剣と飢饉と疫病で倒れるであろう。

(12節) 遠くの者は疫病で死に、近くの方は剣によって倒れ、残りの者や守りの中にいる者は飢饉によって死ぬであろう。そしてわたしは彼らに対するわが憤りを全うする。

(13節) 彼らの刺し貫かれた者達が、彼らの祭壇の周りの彼らの偶像供の只中、すべての高い丘の上、すべての山々の頂で、すべての繁茂する木の下で、すべての青々としたテレビンの下、彼らのすべての偶像供のため、彼らが宥めの香りを献じた場所に伏す時、あなた達はわたしがヤハウエであることを知る。

(14節) そしてわたしは彼らに対してわが手を伸ばし、彼らの居住地のすべてにおいて、荒れ野からディブラまで<sup>75</sup>、地を荒廃と恐怖に導く。そして彼らは、わたしがヤハウエであることを知る。

<sup>72</sup> 前注を見よ。

<sup>73</sup> あるいは意識して「わたしは引き裂かれる」。訳文は直訳。しかし文法的にも内容的にも奇妙。70人訳は「わたしは誓った」と訳す。BHSは冒頭の1字をニユンからワウに読み替えることを提案。考え易い誤写であり、読み替え後の訳文は「～をわたしは折る」となってより文脈に適合し、文法的にも自然である。アキラ、シンマコス、テオドチオンの他、ウルガタやタルグムもこの訳を採用しているので、可能性は高いと思われる。

<sup>74</sup> 直訳「悪」。9節の複数形の「悪」に対応するヤハウエの報復。

<sup>75</sup> 別訳「ディブラタの荒れ野よりも」。

## [7 章]

(1 節) そしてヤハウエの言葉がわたしにあり、こう言われた。

(2 節) そして汝、人の子よ、主なるヤハウエはイスラエルの大地に向かってこう言われる、終わりが、地の四隅<sup>76</sup>に終わりがやって来る。

(3 節) 今や終わりがあなたの上であり、わたしはわが怒りをあなたの上に放ち、あなたの道に従ってあなたを裁く。そしてわたしはあなたのすべての忌み嫌うべきことの報いを、あなたに対して与える。

(4 節) そしてわが目はあなたを憐れまず、わたしは容赦しないであろう。まことにわたしはあなたの道の報いをあなたに与え、あなたの数々の忌み嫌うべきことはあなたの只中にあるであろう。そしてあなた達は、わたしがヤハウエであることを知るのだ。

(5 節) 主なるヤハウエはこう言われる。災いが、一つの災いが<sup>77</sup>、見よ、やって来る。

(6 節) 終わりが来る、終わりがやって来て、あなたを覚醒させる。見よ、やって来る。

(7 節) 編み糸<sup>78</sup>がやって来る。この地に住む者よ、あなたの上に。その時が来る、その日は近い。混乱であって、山々の歓呼ではない<sup>79</sup>。

(8 節) 今やわたしは、速やかに<sup>80</sup>わが憤りをあなたの上に注ぎ、わが怒りをあなたに対して全うし、あなたの道に従ってあなたを裁く。そしてわたしは、あなたのすべての忌み嫌うべきことの報いを、あなたに対して与える。

(9 節) そしてわが目は憐れまず、わたしは容赦しないであろう。わたしはあなたの道に従ってあなたに報いを与え、あなたの数々の忌み嫌うべきことはあなたの只中にあるであろう。そしてあなた達は、わたしヤハウエが打ったことを知るのだ。

(10 節) 見よ、その日。

見よ、編み糸<sup>81</sup>が行き来する。

杖は花咲き、傲慢は芽吹く。

(11 節) 暴虐が悪の杖へと立ち上がる。彼らからではなく、彼らの群衆からではなく、

<sup>76</sup> ケレーによる訳。

<sup>77</sup> 「災い」と訳した語の直訳は「悪」。多くの写本や印刷本に従って意味不明な「一つの」を「の後に」と読み替えると、この部分は「災いに次ぐ災い」となり、意味が鮮明になる。

<sup>78</sup> 「編み糸」と訳した語はイザヤ書 28:5 に用例があり、K&B は「花輪、糸」、BDB は「編んだ物、飾り」と訳す。それ以外にも様々な訳語が提案されたが、意味は依然不明。

<sup>79</sup> この一文はテキストが壊れており、正確な意味は不明。BHS の修正案に従えば「遅れることもなく、延期もされない」となる。70 人訳は「喧噪も伴わず、陣痛の苦しみも伴わず」。

<sup>80</sup> 直訳「近くから」。

<sup>81</sup> 7 節の注を参照。

彼らの怒号からではなく、彼らの高貴さからではない<sup>82</sup>。

(12 節) その時がやって来る。その日が到来する。

買う者は喜ぶなかれ。そして売る者は嘆くなかれ。

まことに、怒りがその<sup>83</sup>すべての群衆の上にある。

(13 節) まことに、売る者は売られた物へと帰ることはなく、

まだ彼らの命は命の中にあるが<sup>84</sup>、まことに、幻がすべての群衆の上に帰ることはない。そして各々自分の咎によって、自分の命を固く保つことはないであろう。

(14 節) 彼らは角笛を吹き、すべてを準備したが、だれも戦へと行こうとしない。

まことに、怒りがその群衆の上にある。

(15 節) 通りでは剣、家からは疫病と飢饉。

野にいる者は剣によって死に、

町にいる者は飢饉と疫病が彼を食い尽くすであろう。

(16 節) そして彼らのうちの逃れた者達は、逃れて山々に至り、谷間の鳩のように、すべてが呻き声を上げる。それぞれ、自分の咎のゆえに。

(17 節) すべての手は垂れ下がり、すべての膝は水（とともに）行く<sup>85</sup>。

(18 節) そして彼らは粗布をまとい、戦慄が彼らを包む。

そしてすべての顔には恥辱、彼らのすべての顔には禿。

(19 節) 彼らは自分の銀を通りに捨て、彼らの金は不潔な物となる。

彼らの銀と彼らの金は、ヤハウエの怒りの日には彼らを救い出すことは出来ない。

それらは彼らの飢えを満たさず、彼らの腹を満ち足らせはしない。

まことに躓きは、彼らの咎である。

(20 節) その飾りの美しさを彼らは高ぶりとなし、彼らの忌み嫌うべき物、彼らの憎むべき物の形の数々をそれによって作り上げた。それゆえわたしは、それを彼らに対して不潔な物として与えた。

(21 節) そしてわたしはそれを異国の者達の手には戦利品として、この地の悪人達に略

<sup>82</sup> 訳文は直訳。意識すれば「彼らにも、彼らの混乱にも、彼らの怒号にも、彼らの王侯にも、何も残されてはいない」という意味か。

<sup>83</sup> 女性単数形接尾辞なので、直訳すれば「彼女の」。しかし、付近に対象となりそうな語は見当たらない。あるいは2節の「イスラエルの大地」を指すか。

<sup>84</sup> 意識すれば「彼らはまだ命を永らえていても」。

<sup>85</sup> 別訳「行って水（になる?）」。意識の試み「すべての膝は水を滴らせる（失禁）」「すべての膝は水のようになる（麻痺）」。

奪物として与える。そして彼らはそれを汚す<sup>86</sup>。

(22 節) そしてわたしはわが顔を彼らからそむけ、彼らはわが宝<sup>87</sup>を汚す。

そして乱暴者達がその中に入り、それを汚す<sup>88</sup>。

(23 節) 鎖を作れ。まことにこの地は血による正義<sup>89</sup>に満ち、都は暴虐に満ちている。

(24 節) そしてわたしは諸国民の(中で最も)悪い者達を来たらせ、彼らは彼らの家々を接収する。そしてわたしは強者達の誇りを終わらせ、彼らの数々の聖所<sup>90</sup>は汚される。

(25 節) 恐怖が到来し<sup>91</sup>、彼らは平和を求めがそれはない。

(26 節) 災いの上に災いがやってきて、悲報の上に悲報があるであろう。

そして彼らは預言者から幻を求め、

律法は祭司から、献策は長老達から絶えるであろう。

(27 節) 王は悲嘆に暮れ、君主は荒廃を身にまとい、国の民の手は萎えるであろう。

わたしは彼らの道に従って<sup>92</sup>彼らになし、彼らの正義によって彼らを裁く。

そして彼らは、わたしがヤハウエであることを知るのだ。

## [8 章]

(1 節) 第 6 年、第 6 (の月)<sup>93</sup>、その月の 5 (日)<sup>94</sup>、わたしは自分の家に坐っており、ユダの長老達が私の前に坐っていた。そして、そこでわたしの上に主なるヤハウエの手が下った。

(2 節) わたしが見ると、見よ、火に見えるようなものの姿<sup>95</sup>が、その腰に見えるものから下に向かって火が、そしてその腰から上に向かって白金の輝き<sup>96</sup>のような、光輝<sup>97</sup>のようなものがあった。

<sup>86</sup> 訳文はケレーによる。

<sup>87</sup> 直訳「隠された物」。

<sup>88</sup> ここに現れる二つの接尾辞は、いずれも女性単数形。「イスラエルの地」を指すか。但し、BHS の指示に従って男性形に読み替えるなら、「わが宝」を指すことになる。

<sup>89</sup> 別訳「裁き」。

<sup>90</sup> 訳文は 70 人訳とウルガタを参考にした意訳。マソラ本文を厳密に直訳するなら、「彼らを聖別する物(者)」「複数形」となる。

<sup>91</sup> BHS の提案に従って、この動詞を男性単数から女性単数に読み替える。

<sup>92</sup> 訳文は意訳。直訳「彼らの道から」。

<sup>93</sup> 70 人訳は「第 5 の月に」

<sup>94</sup> ペテルブルク預言者写本の異読は「第 1 日目に」。

<sup>95</sup> 70 人訳は「人の姿」。

<sup>96</sup> 注 6 を参照。

<sup>97</sup> 「ゾハル」。この文書に初めて出て来る語。

(3 節) そして彼は手の形をしたものを差し伸べ、わたしの頭の髪の毛を掴んだ。そして霊がわたしを地と天の間に引き上げ、神の顕現によってわたしをエルサレムの方へ、北の方角に面する内側の門の扉へと連れて来た。そこには、激しい怒りを呼び起こす激怒の偶像の座があった。

(4 節) そして見よ、そこにはわたしが谷間で見た顕現のような、イスラエルの神の栄光があった。

(5 節) そして彼はわたしに言った。人の子よ、あなたの目を北の方角に向かって上げよ。そこでわたしは目を北の方角に向かって上げた。そして見よ、祭壇の門の北側<sup>98</sup>、入り口に、この激怒の偶像があった。

(6 節) そして彼はわたしに言った。人の子よ、あなたは彼らは何を<sup>99</sup>しているか見ているか。イスラエルの家がここでしている大いなる忌み嫌うべきことの数々は、わたしの聖所から距離を置くためである。そして更にあなたは、大いなる忌み嫌うべきことの数々を続けて目にすることであろう。

(7 節) そして彼は、わたしを庭の入口に連れて来た。そして見よ、わたしは壁に一つの穴を見た。

(8 節) そして彼はわたしに言った。人の子よ、壁に穴を穿て。そこでわたしは、壁に穴を穿った。すると見よ、一つの入口 (があった)。

(9 節) そして彼はわたしに言った。入って行き、彼らがここで行なっている悪い忌み嫌うべきことの数々を見よ。

(10 節) そしてわたしは入って行き、見た。すると見よ、すべての這う物と獣の形、おぞましい物<sup>100</sup>。そしてイスラエルの家のすべての偶像が、周囲の壁の上一面に彫られていた。

(11 節) そしてそれぞれイスラエルの家の長老達である 70 人がそれらの前に立っており、シャファンの子ヤアザンヤフーが彼らの間に立っていた。それぞれ手には香炉があり、お香の煙の薫香が立ち昇っていた。

(12 節) そして彼はわたしに言った。人の子よ、あなたはイスラエルの家の長老達が闇の中で、それぞれ自分の偶像の部屋部屋で行なっていることを見たか。まことに (彼ら

<sup>98</sup> あるいは「門の北側に祭壇」と訳すことも可能。また、BHS の読み替えの提案に従ってこの部分をその後の部分と結びつけるなら、「門の北側に～偶像の祭壇」となる。これだと、位置的な辻褄は合ってくる。

<sup>99</sup> 訳文の「彼らは何を」はケレーによる。

<sup>100</sup> 「すべての這う物と獣、おぞましい物の形」と訳すことも可能。



は)、ヤハウエはわれわれを見ていない、ヤハウエはこの地を見捨てた、と言っている。

(13 節) そして彼はわたしに言った。あなたは更にまた、彼らが行なっている大いなる忌み嫌うべきことの数々を見るであろう。

(14 節) そして彼はわたしを北の方のヤハウエの家の門の扉まで連れて来た。すると見よ、そこでは女達がタンムズに向かって泣きながら坐っていた。

(15 節) そして彼はわたしに言った。人の子よ、あなたは見たか。あなたは更にまた、これらのことより一層大いなる忌み嫌うべきことの数々を見るであろう。

(16 節) そして彼は、わたしをヤハウエの家の内側の庭に連れて来た。すると見よ、ヤハウエの聖堂の入口、柱廊と祭壇の間に、およそ 25 人がそれぞれ背をヤハウエの聖堂に、顔を東の方に (向けており)、彼らは東の方、太陽に向かってひれ伏していた<sup>101</sup>。

(17 節) そして彼はわたしに言った。人の子よ、あなたは見たか。ユダの家にとって、彼らがここで行なった忌み嫌うべきことの数々を行なうことは、些細なことであろうか。まことに、彼らはこの地を暴虐で満たし、繰り返しわたしを苛立たせ、見よ、枝の房<sup>102</sup>を自分達の鼻へと差し出している。

(18 節) わたしもまた憤りをもって行なう。わが目は憐れまず、わたしは容赦しないであろう。そして彼らがわたしの耳に向かって大声で叫んでも、わたしは彼らに聞かないであろう。

## [9 章]

(1 節) そして彼は、わたしの耳に向かって大声で呼びわり、こう言われた。この町の懲罰は近づいた<sup>103</sup>。それぞれ破壊の道具を手に (せよ)。

(2 節) そして見よ、六人の男達が、北の方に面した上の門の方角からやって来た。それぞれ手に打ちこわしの道具があり、彼らのうちの一人は亜麻布を身にまとい、書記のインク壺を腰に着けていた。そして彼らは入って来ると、青銅の祭壇の傍らに立ち止まった。

(3 節) そしてイスラエルの神の栄光が、その上にあったケルブから離れ、その家の敷居へと昇って行った。そして彼は、亜麻布を身にまとして書記のインク壺を腰に着けた男に呼ばわった。

<sup>101</sup> 訳文の「ひれ伏していた」は、BHS の提案に従った読み替えによる。本文は書記の誤記ないし文法的誤解によるもので、そのままでは意味をなさない。

<sup>102</sup> あるいは「葡萄の房」。この部分の正確な意味は不明。70 人訳はこれ以下を「(そして見よ、彼らが) どれほど馬鹿にしているか」と訳す。

<sup>103</sup> あるいは「近づけ、この町の懲罰 (者達) よ」。

(4節) そしてヤハウエは彼に<sup>104</sup> 言った。この町の只中、エルサレムの只中を通して行け。そしてあなたは、その只中で行なわれているすべての忌み嫌うべきことのゆえに嘆息し、呻吟している男達の額に印を付けるのだ。

(5節) そして彼<sup>105</sup> は、彼らに対してわたしの耳に(も) 入るように言った。あなた達は彼<sup>106</sup> の後に従って、この町の中を通して行き、打て。あなた達の目は憐れまず<sup>107</sup>、あなた達は容赦しないであろう<sup>108</sup>。

(6節) あなた達は、長老、若者と処女、それに幼児と夫人達を殺害し、滅ぼせ。しかし、その上に印のあるすべての男については、近づいてはならない。そしてあなた達は、わが聖所から始めよ。そこで彼らは、かの男達、神殿<sup>109</sup>の前の長老達から<sup>110</sup> 始めた。

(7節) そして彼は彼らに言った。あなた達は神殿<sup>111</sup>を汚し、中庭を刺し貫かれた者達で満たし、出て行け。そこで彼らは出て行き、その町<sup>112</sup>で打った。

(8節) そして彼らが打っている時のことだった。わたしは取り残されていた。わたしはうつ伏せに倒れ伏し、叫んで言った。ああ、主ヤハウエよ、あなたはイスラエルの上にあなたの憤りを注がれることによって、イスラエルのすべての残りの者を滅ぼそうとするのですか。

(9節) そして彼はわたしに言った。イスラエルとユダの咎は非常に甚だしく大きく、この地は血で満たされ、この町<sup>113</sup>は不正で満ちている。まことに彼らは言う、ヤハウエはこの地を見捨てた、ヤハウエは見えていない、と。

(10節) そしてわたしもまた、わが目は憐れまず、わたしは容赦しないであろう。わたしは彼らの道の報いを、彼らの頭上に与える。

(11節) そして見よ、亜麻布を身にまとい、インク壺を腰に着けた男が報告して言った<sup>114</sup>。わたしはあなたがわたしに命じた通りに<sup>115</sup> 行ないました。

<sup>104</sup> ケレーによる。2-3節に登場する書記らしい人物への呼びかけ。

<sup>105</sup> ヤハウエ。

<sup>106</sup> 書記風の人物。

<sup>107</sup> あるいは「あなた達の目を憐れませるな」。訳文はケレーによる読み替えによる。

<sup>108</sup> あるいは「あなた達は容赦するな」。

<sup>109</sup> 直訳「その(この)家」。

<sup>110</sup> 直訳「に対して」あるいは「において」。訳文は70人訳を参考にした意訳。

<sup>111</sup> 注109と同じ。

<sup>112</sup> あるいは「都」。

<sup>113</sup> 前注を見よ。

<sup>114</sup> 直訳「言葉を持ち返った」。

<sup>115</sup> 訳文はケティープによる。ケレーに従って読み替えるなら、「(あなたがわたしに命じた)すべての通りに」となる。

## [10 章]

(1 節) そしてわたしが見ると、見よ、ケルビム<sup>116</sup>の頭上の天蓋の上に、サファイア石<sup>117</sup>のような、王座の形の有様のようなものがあり、それら〔ケルビム〕の上に現れた。

(2 節) そして彼は、亜麻布を身にまとった男に言った。彼は言った。回転<sup>118</sup>の間に、ケルブ<sup>119</sup>の下に入り、あなたの両の掌をケルビムの間から得た炭火で満たし、この町<sup>120</sup>にまき散らせ。そして彼は、わたしの目の前で入って行った。

(3 節) そしてその男が入って行った時、ケルビムは神殿<sup>121</sup>の南側<sup>122</sup>に止まっていた<sup>123</sup>。そして雲が内側の庭を満たしていた。

(4 節) そしてヤハウエの栄光がケルブ<sup>124</sup>から神殿<sup>125</sup>の敷居へと上り、神殿<sup>126</sup>は雲で満たされ、庭はヤハウエの栄光の輝きで満ちた。

(5 節) そしてケルビム<sup>127</sup>の翼の音が外の庭まで聞こえ、エール・シャツグイ<sup>128</sup>が語る時の声のようであった。

(6 節) そして、彼が亜麻布を身にまとった男に命じて、回転<sup>129</sup>の間から、ケルビムの間から火を取れと言うと、彼<sup>130</sup>は車輪の傍らに立った。

(7 節) そしてケルブが、ケルビムの間からその手をケルビムの間にある火に差し伸べ、持ち上げ、亜麻布を身にまとった(者の)両の掌に置いた。そして彼は取り、出て行った。

(8 節) そしてケルビム(について)は、それらの下に人の手の形をしたものが見えた<sup>131</sup>。

<sup>116</sup> 「ケルビム」は複数形。

<sup>117</sup> 別訳「ラピス・ラズーリ」。

<sup>118</sup> 「ガルガル」。車輪の回転音でもあり、また風の音でもある(イザヤ書 17 章 13 節を参照)。ゴーゴーという不快音か。

<sup>119</sup> 「ケルブ」は単数形。但し、70 人訳、ウルガタは複数形。

<sup>120</sup> あるいは「都」。

<sup>121</sup> 直訳「その(この)家」。

<sup>122</sup> 直訳「右側」。

<sup>123</sup> 直訳「立っていた」。

<sup>124</sup> 「ケルブ」は単数形。

<sup>125</sup> 直訳「その(この)家」。

<sup>126</sup> 前注と同じ。

<sup>127</sup> 複数形。

<sup>128</sup> あるいは「全能の神」。

<sup>129</sup> 注 118 を見よ。

<sup>130</sup> 亜麻布を身にまとった男。

<sup>131</sup> 「手」は単数形。この部分の 70 人訳は、「そしてわたしはケルビンを、人間の手のようなもの〜を見た」。

(9 節) そしてわたしは見た。そして見よ、四つの車輪がケルビムの傍らにあり、一つの車輪が一つのケルブの傍らに、また一つの車輪が一つのケルブの傍らにあり、車輪の有様は貴橄欖石の輝き<sup>132</sup> のようだった。

(10 節) そしてそれらの有様 (について) は、一つの姿は四つとも同じであり、車輪が車輪の中にあるかのようにだった。

(11 節) それらが進む際には、四つの方向の四つに対して (それらは) 進み、進む際には向きを変えなかった。なぜなら頭<sup>133</sup> が向かう所にそれらは従い進み、進む際には向きを変えなかったからである。

(12 節) そしてそれらの全身、それらの背中<sup>134</sup>、それらの手、それらの翼、そして車輪 (について) は、周囲には目が満ち溢れていた。それらの車輪は、四つとも同じだった。

(13 節) それらの車輪は、わたしの耳に回転<sup>135</sup> と呼ばれた<sup>136</sup>。

(14 節) そして一つにつき四つの顔があった。一つの顔はケルブの顔であり、第 2 の顔は人の顔であり、第 3 の顔は獅子の顔であり、第 4 の顔は鷲の顔であった。

(15 節) そしてケルビムは上げられた。それこそは、ケバル川でわたしが見た生き物だった。

(16 節) そしてケルビムが進む際には車輪もそれらの傍らを進み、ケルビムが地上から上るためにそれらの翼を持ち上げる際には、車輪もまたそれら〔ケルビム〕の傍らから離れなかった。

(17 節) それら〔ケルビム〕が立ち止まる<sup>137</sup> 際にはそれら〔車輪〕も立ち止まり<sup>138</sup>、それら〔ケルビム〕が上る際にはそれら〔車輪〕もそれら〔ケルビム〕とともに<sup>139</sup> 上げられた。なぜならその生き物の霊がそれら〔車輪〕の中にあったからである。

(18 節) そしてヤハウエの栄光が神殿<sup>140</sup> の敷居から<sup>141</sup> 出て行き、ケルビムの上に立ち止まった<sup>142</sup>。

<sup>132</sup> 直訳「目」。

<sup>133</sup> あるいは「先頭」。

<sup>134</sup> あるいは「外枠」か。

<sup>135</sup> 注 118 を見よ。

<sup>136</sup> 別訳「ガルガルと呼ばれるのがわたしの耳に入って来た」。

<sup>137</sup> 直訳「立つ」。

<sup>138</sup> 直訳「立ち」。

<sup>139</sup> 「それらとともに」は BHS の提案に従って読み替えた訳。本文を直訳すれば「それらを」となり、意味をなさない。

<sup>140</sup> 直訳「その (この) 家」。

<sup>141</sup> 70 人訳は「家 (つまり神殿) から」。

<sup>142</sup> 直訳「立った」。

(19 節) そしてケルビムはそれらの翼を持ち上げ、わたしの目の前で地上から上げられて出て行き<sup>143</sup>、車輪がそれらと一緒にだった。そして、ヤハウエの神殿<sup>144</sup>の東の門の扉にそれ〔ヤハウエの栄光〕は立ち止まり<sup>145</sup>、イスラエルの神の栄光がそれら〔ケルビム〕の上であって上に向かっていた。

(20 節) それはわたしがケバル川でイスラエルの神の下に (いるのを) 見た生き物であり、わたしはそれらがケルビムであることを知った。

(21 節) 一つにつき四つ、四つの<sup>146</sup> 顔、そして一つにつき四つの翼、そして翼の下には人の手<sup>147</sup>の形があった。

(22 節) それらの顔の形は、まさにわたしがケバル川沿いで見た顔、それらの有様とそれらのしるしであり、それぞれ前方に向かって<sup>148</sup> 進んだ。

## [11 章]

(1 節) そして霊がわたしを引き上げ、わたしを東方に面したヤハウエの神殿<sup>149</sup>の門まで連れて来た。すると見よ、門の扉に 25 人の<sup>150</sup> 男がおり、わたしは彼らの中に、アズールの子アヤザニヤーと、ベナヤフーの子ペラトヤフー、(すなわち) 民の長達を見た。

(2 節) そして彼はわたしに言った。人の子よ、これらはこの町の中で邪悪なことを企み、悪の謀議を巡らしている男達である。

(3 節) 彼らは言っている。家々を建てるのは間近ではない<sup>151</sup>、彼女〔この町〕は鍋でわれわれは肉だ、と<sup>152</sup>。

(4 節) それゆえ彼らに預言せよ、人の子よ、預言せよ。

(5 節) そしてヤハウエの霊がわたしの上に下り、彼はわたしに言った、言え、ヤハウエはこう言われる、と。イスラエルの家よ、あなた達はそのように言った。そしてわたしは、

<sup>143</sup> 直訳「出て行く際に」。

<sup>144</sup> 直訳「ヤハウエの家」。

<sup>145</sup> 直訳「立ち」。

<sup>146</sup> 「四つ」の繰り返しはおそらく二重書写。

<sup>147</sup> 複数形。

<sup>148</sup> 直訳「まっすぐに顔が」。

<sup>149</sup> 直訳「ヤハウエの家」。

<sup>150</sup> 8 章 16 節と比較。こちらには「およそ」がない。

<sup>151</sup> 70 人訳「家々は最近建てられたのではなかったか」。

<sup>152</sup> この部分、意味不詳。「建てるのは」と訳したベノートをバト(「娘」)の複数コンストラクト形と理解するなら、「家々の娘たちが近づいて来る時、彼女は鍋でわれわれは肉ではない(か)」、あるいは「家々の娘たちが近づかない時は、彼女が鍋でわれわれは肉」等の訳も、文法上は可能。

あなた達の心に浮かび上がって来るものを<sup>153</sup>知っている<sup>154</sup>。

(6節) あなた達はこの町で刺し貫かれた者達を増やし、その〔この町の〕街路を刺し貫かれた者で満たした。

(7節) それゆえ主なるヤハウエはこう言われる。その〔この町の〕只中にあなた達が置いたあなた達の刺し貫かれた者達、彼らは肉であり、それ〔この町〕は鍋である。そして彼は、あなた達をその〔この町の〕只中から連れ出す<sup>155</sup>。

(8節) あなた達は剣を恐れるが、わたしはあなた達の上に剣を来たらず。主なるヤハウエの御告げ。

(9節) そしてわたしはあなた達をその〔この町の〕只中から連れ出し、あなた達を異国の者達の手に渡す。そしてわたしは、あなた達の上に裁きを行なう。

(10節) あなた達は、剣によって倒れるであろう。イスラエルの境界線上で、わたしはあなた達を裁くであろう。そしてあなた達は、わたしがヤハウエであることを知るのだ。

(11節) それ〔この町〕はあなた達にとって鍋とはならず、あなた達はその〔この町の〕只中で肉（とはならない）<sup>156</sup>であろう。

(12節) そしてあなた達は、わたしがヤハウエであることを知るのだ。あなた達はわが掟に歩まず、わが戒律を行なわず、あなた達の周囲の諸国民の戒律に従って行なった。

(13節) するとわたしが預言していた時のこと、ベナヤーの子ペラトヤフーが死んだ。そこでわたしはひれ伏し、大声で叫んで言った。ああ主なるヤハウエよ、あなたはイスラエルの残りの者を終わりにしようとしている<sup>157</sup>。

(14節) そしてヤハウエの言葉がわたしにあり、こう言われた。

(15節) 人の子よ、あなたの兄弟達、あなたの親族の男達であるあなたの兄弟達、そしてイスラエルの全家、そのすべて、彼らについてエルサレムの住民達は言う。あなた達はヤハウエから遠ざかれ<sup>158</sup>。この土地、それこそはわれわれに所有地として与えられたものだ。

<sup>153</sup> 直訳「あなた達の霊の上昇を」。

<sup>154</sup> 訳文は BHS の修正提案に従って「わたしは知っている」の接尾語一字を削除したもの。MT 通りであれば、「わたしは彼女〔あなた達の霊の上昇?〕を知っている」となるが、それでは文脈的に全く意味をなさない。

<sup>155</sup> BHS の修正提案に従えば、「わたしは～連れ出すであろう」。多くの写本もこうなっており、70 人訳を始め主な古代訳もそのように訳している。文脈的にはその方が自然。

<sup>156</sup> 70 人訳、ウルガタには否定辞があるが、MT にはない。

<sup>157</sup> BHS はここを重字脱落として疑問辞を補う。この修正提案に従えば訳文は「～しているのですか」となり、9 章 8 節と対応する。

<sup>158</sup> BHS の修正提案に従って読み替えるならば、「彼らはヤハウエから離れた」。

(16 節) それゆえ言え。主なるヤハウエはこう言われる。まことにわたしは彼らを諸国民の間に遠ざけ、まことにわたしは彼らを国々の間に散らした。しかしわたしは彼らが入り来るその国々において、彼らにとってささやかな<sup>159</sup> 聖所となるであろう。

(17 節) それゆえ言え。主なるヤハウエはこう言われる。わたしはあなた達を諸民族から集め、あなた達をあなた達が散らされた国々から回収する。そしてわたしはあなた達に、イスラエルの大地を与える。

(18 節) そして彼らはそこに来て、すべての憎むべきこととすべての忌み嫌うべきことをそこ〔イスラエルの大地〕から取り除く。

(19 節) そしてわたしは彼らに一つの心を与え、あなた達の中に<sup>160</sup> 新しい霊を与える。そしてわたしは、彼らの肉から石の心を取り除き、彼らに肉の心を与える、

(20 節) それは彼らがわが掟に従って歩み、わが戒律を守り、それを行なうためである。そして彼らはわたしの民となり<sup>161</sup>、わたしは彼らの神となる<sup>162</sup>。

(21 節) そして心に<sup>163</sup> 彼らの憎むべきことの数々と忌み嫌うべきことの数々（を抱いて）、彼らの心は歩んでいる。わたしは彼らの頭上に彼らの道を返す<sup>164</sup>。主であるヤハウエの御告げ。

(22 節) そしてケルビムがその翼を持ち上げ、車輪がそれらと一緒にだった。そしてイスラエルの神の栄光が、それらの上であって向かっていた。

(23 節) そしてヤハウエの栄光がこの町の只中から上り、この町の東の方にある山の上に立ち止まった<sup>165</sup>。

(24 節) そして霊がわたしを引き上げ、顕現において神の霊によって、わたしをカルデアの方に、捕囚民の許へ連れて行った。そしてわたしが見た顕現は、私から（離れて）上って行った。

(25 節) そしてわたしは捕囚民に、ヤハウエ<sup>166</sup> がわたしに見せたヤハウエのすべての

<sup>159</sup> あるいは「暫くの間」。直訳「少し」。

<sup>160</sup> 多くの写本と 70 人訳を始め主な古代訳は「彼らの中に」。ツインマーリによれば、MT は書記の誤記。

<sup>161</sup> 直訳「わたしにとって民となり」。

<sup>162</sup> 直訳「彼らにとって神となる」。

<sup>163</sup> この部分、テキストが壊れており、意味をなさない。BHS の修正提案に従って冒頭のこの二つの語を読み替えるなら、この一文は「彼らは、その心が憎むべきことの数々と忌み嫌うべきことの数々に従って歩んでいる」となる。70 人訳は「そして彼らの忌むべきことの数々と彼らの不法の数々の心へと、彼らの心が歩んだために」。

<sup>164</sup> 直訳「与える」。彼らの責任を問うということ。

<sup>165</sup> 直訳「立った」。

<sup>166</sup> 直訳「彼」。原文では語順が逆なのでこう訳した。

言葉<sup>167</sup>を語った。

## 主要参照文献

### 【一次文献と辞書】

1. マソラ本文（略号 MT）の底本として用いたのは、(ed.) K. Elliger et W. Rudolph, *Biblia Hebraica Stuttgartensia*, Deutsche Bibelgesellschaft, Stuttgart, 1977. (略語 BHS)。  
但し、(ed.) K. Elliger et W. Rudolph, *Biblia Hebraica Leningradensia*. Hendrickson, 2001. (略語 BHL) も必要に応じて参考にした。
2. 古代訳の 70 人訳とウルガタは、それぞれ以下の校訂本を用いた。  
(ed.) Alfred Rahlfs, *Septuaginta*, Deutsche Bibelgesellschaft, Stuttgart, 1979.  
(ed.) Roger Gryson et al., *Biblia Sacra Vulgata*, Deutsche Bibelgesellschaft, Stuttgart, Vierte, verbesserte Aufl. 1994.
3. 主な使用辞書は、以下の通り。  
*The New Brown, Driver, Briggs, Gesenius Hebrew and English Lexicon*, Peabody : Hendrickson, 1979. (略語 BDB)  
(ed.) Ludwig Koehler & Walter Baumgartner, *The Hebrew and Aramic Lexicon of the Old Testament (vol.1&2)*. Brill, 2001. (略語 K&B)  
(ed.) H.G. Lidell and R. Scott, *Greek-English Lexicon*, Clarendon Press : Oxford, 1996.  
(ed.) Edwin Hatch and Henry A. Redpath, *A Concordance to the Septuagint, second edition*. Baker, 1998.  
(ed.) T. Muraoka, *A Greek-English Lexicon of the Septuagint*. Peeters, 2009.  
(ed.) P.G.W. Glare, *Oxford Latin Dictionary, second edition (vol. 1&2)*. Oxford University Press, 2012.

### 【二次文献】

- Allen, Leslie C., *Ezekiel 1-19*, Word Biblical Commentary Vol. 28, Dallas : Word Books, 1994.  
ブレンキンソップ, J. (金井美彦訳) 『エゼキエル書』日本基督教団出版局, 1993 年。  
Block, Daniel I., *The book of Ezekiel. Chapters 1-24*. The New International Commentary, Grand Rapids : Wm.B.Eerdmans Publishing Co., 1997.  
ディクストラ, M. (池永倫明訳) 『コンパクト聖書注解エゼキエル書 I』教文館, 2004 年。

---

<sup>167</sup> 別訳「出来事」。



アイヒロット, W. (川中子義勝訳) 『エゼキエル書上 一―一八章』 (ATD・NTD 聖書註解刊行会, 1998 年)。

Greenberg, Moshe, *Ezekiel 1-20*, Anchor Bible, Doubleday, 1983.

樋口進「エゼキエル書」(序論, 1-39 章), 高橋虔/シュナイダー, B. 監修『新共同訳 旧約聖書注解 II』(日本基督教団出版局, 1994 年)所収。

関根正雄『新訳 旧約聖書 第三卷 預言書』教文館, 1994 年。

月本昭男『旧約聖書 IX エゼキエル書』岩波書店, 1999 年。

Zimmerli, Walther, *A Commentary on the book of the Prophet Ezekiel, Chapters 1-24*, trans., by Ronald E. Clements, Hermeneia, Philadelphia: Fortress Press, 1979. [*Ezekiel 1*, *Biblischer Kommentar Altes Testament*, Band XIII/1, Waningen: Neukirchen-Vluyn, 1969.]